

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2011.5. VOL.15

contents

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

研究科長就任ご挨拶 藤井義敬

新年度から医学研究科長・医学部長を拝命いたしました藤井義敬(腫瘍・免疫外科、呼吸器外科)です。よろしくお願い申し上げます。

小児科に北海道大学から齋藤新教授をお迎えし、小椋、中西の両新副研究科長とともに教授会も新しい顔ぶれが揃いました。フレッシュな陣容で行動する医学研究科・医学部を目指します。学生も新入生が95人と大幅に増えました。今年は多くの留年生がいて教室が窮屈なのですが、全員無事に卒業していただくように教育する側も気合いを入れなくてはなりません。この部分は教育担当の小椋先生にご活躍(ご苦労)願います。研究は中西先生に担当いただきます。研究科では国内外の優秀な研究者をリクルートするプロジェクトなど、名市大の医学研究の活性化に向けて準備を整えて参ります。

だいぶ昔ですがBSTがBSLに変わりましたが中味は全く一緒でした。中味が変わって積極的、自主的な学習が実現できればBSTのままでいいのです。医学部の中味を少しずつ変えていきたいと思っています。大学のような組織は毎年少しずつでも変わっていくことが求められます。求められなくても自ら変わって行かないと、去年と同じことをやっているのは退歩と同義です。研究ではずっと同じことをしては論文にならないことは明らかですが、研究科・医学部の運営面でも実は同様なのです。

市立大学振興基金というのがあります。日本人はあまり寄附をする習慣がないのですが、この震災に関しては特別で積極的です。医学部は実は経営が火の車で光熱水費を先生方の稼いでくる研究費から工面しなくてはならないのが現状です。何とかするのは執行部の仕事でもあるのですが、是非余裕のおありの方は基金にご寄附をいただき、たとえば、癌研究のための研究資金、とか学生の6年間の学費、生活費を支える奨学金など寄附者のお名前を冠したのも可能です。宜しくお願い申し上げます。



藤井 義敬 研究科長

このたびの東日本大震災により、犠牲となられました方々、ご遺族の方々に心より哀悼の意を表します。また、被災されました方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本学では、被災した学生に対し、通常の授業料の減免措置に加え、特別措置として次のような経済的支援を行っています。

家屋被害の程度に応じた入学料の全額または半額減免措置

授業料減免基準(成績・収入)の緩和措置

家族が被災した下宿学生に対する宿舍の無償提供 等

詳細につきましては、本学のホームページをご覧ください。学生課学生支援係へお問い合わせ下さい。

<http://www.nagoya-cu.ac.jp/dd.aspx>

学生課学生支援係 052(872)5042

“瑞医の由来”

『瑞医(ずいい)』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

退職される教授のご紹介

白井 智之 先生

白井智之先生は、平成元年4月1日に名古屋市立大学講師に就任し、平成2年11月1日に助教授、平成6年9月に教授に、平成14年4月1日に名古屋市立大学大学院医学研究科実験病態病理学教授となり平成23年3月31日に定年退職されました。その間、平成15年4月1日より名古屋市立大学大学院副研究科長を平成17年3月31日まで勤め、平成19年4月1日に再び副研究科長、平成21年4月1日より研究科長を勤められました。

白井先生は、永年にわたって実験病理学の教育、研究に務め、特に、前立腺癌、電磁波の安全性、トキシコゲノミクス分野で業績をあげられました。これらの業績により白井先生は前立腺ワークショップ医学賞 平成4年9月 高松宮妃癌研究基金研究助成金(平成6年2月) 第21回望月喜多司記念賞業績賞 平成19年3月 社団法人日本病理学会日本病理学賞(平成19年3月) 平成20年度田邊賞(平成20年6月) として平成23年2月には高松宮癌研究基金学術賞を受賞されました。

白井先生は、Cancer Sci.編集委員(Associate editor)、Jpn.J.Clin.Oncol.編集委員、J.Toxicol.Sci.編集委員(Associate editor)、The Prostate Journal 編集委員、(社)日本病理学会Pathology International 刊行委員、日本トキシコロジー学会 編集委員、内閣府食品安全委員会 専門委員、厚生労働省医薬食品局 食品の安心・安全確保推進研究中間・事後評価委員会委員、厚生労働省 創薬基盤推進研究事業(創薬バイオマーカー探索研究事業)中間・事後評価委員会委員、全国医学部長病院長会議事務局 地域医療に関する専門委員会委員総務省総合通信基盤局電波環境課 情報通信審議会専門委員、独立行政法人医薬品医療機構 専門委員としてもご活躍されました。



白井 智之 先生

文責 実験病態病理学 准教授 朝元 誠人

横山 信治 先生



横山 信治 先生

横山信治先生は、1972年に東京大学医学部を卒業された後、東京大学医学部第三内科に入局されました。その後シカゴ大学の生化学教室に留学され、国立循環器病センター脂質研究部門室長、カナダのアルバータ大学医学部教授を経て、1995年に名古屋市立大学医学部生化学第一講座教授に就任されました。その後、当教室において生化学教育、脂質、特にコレステロールの研究に専念されつつ、医学研究科長、副学長、理事等を歴任されました。名古屋市立大学の大学院大学再編に伴い講座名称が変更され、医学研究科基礎医科学講座生物化学分野教授として、本年三月に定年退官されました。名古屋市立大学での横山先生は終始一貫して、動脈硬化症におけるコレステロールの代謝および細胞外搬出の役割とその調節機構を研究テーマにしてこられたと言えます。特に、アポリポタンパク質A-I と細胞表面との相互作用を介したコレステロール搬出機構、コレステロール搬出に重要な ABCA1 タンパク質の発現調節機構と作用機序の研究では、教室員すべてをフル稼働して、絶えず世界のコレステロール研究を牽引してこられました。学生の生化学教育にも熱心で名市大着任後、直ちに生化学の学生実習改変に着手され、また教養教育の重要性と改革を訴えてこられました。そして名市大法人化においても中期目標・中期計画作成に尽力されました。横山先生にとっては、名市大に着任されてからの15年はあつと言う間の15年だったのではないかと推察します。定年後はほっとされるのも束の間で、名古屋市立大学理事として、また中部大学教授として多忙な毎日が待っていることと思います。これからも健康にご留意され、ますますの御活躍をお祈りします。

文責 生物化学 准教授 伊藤 仁一

新任教授のご紹介

新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授

Q:今後の抱負をおねがいします。

平成23年4月1日付で新生児・小児医学分野を担当させていただくことになりました。私は北海道大学を卒業し、小児科医としてのキャリアの大部分を北海道で過ごして参りました。名古屋での生活は初めての経験ですが、名古屋市立大学の皆様と山崎川の桜に暖かく迎えられ、とても嬉しく感じています。名古屋市立大学小児科は新生児を中心とした輝かしい歴史があり、小児医療の拠点として確固とした地位を築いています。私自身は小児神経と遺伝学が専門です。名古屋市立大学小児科の伝統に、新しい息吹を加えることで、これまで以上に活力のある魅力的な小児科として発展することができればと願っています。また、名古屋市立大学は小児を得意とする診療科が沢山あり、こどもを診る総合的に優れています。さらに、胎児から小児、そして思春期から成人へと隙間なく対応することが可能です。こうした小児医療の充実は今までの名古屋市立大学の取り組みの大きな成果だと思います。これからも、各科の先生と良い連携を築き、「こどものことは名古屋市立大学病院へ行けば大丈夫。」と市民の皆様にも認知されるように力を注ぎたいと思います。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



齋藤 伸治 教授

名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターがオープンしました!

臨床シミュレーションセンターが開設されました。国の地域医療再生基金をもとに愛知県地域医療再生計画事業の中の一つとして設置され、愛知県内全域からの医師、看護師、薬剤師、学生などを対象に、医学教育用シミュレーターを利用した研修を提供します。地域医療のうち、特に周産期医療・新生児医療について強い期待を受けていますが、この2つの医療分野を充実させるためには、救急医療に対する研修は必須であり、センターでは救急も加えた、3つの医療分野の研修を提供します。

センターの設立には、愛知県からの予算措置による3つの医療分野のシミュレーター機器の整備に加えて、各市大病院独自の予算措置により、西棟1階に約400㎡のセンター施設整備と人員配置がなされています。そのため、地域への貢献とともに、各市大病院の医療安全、チーム医療の向上に貢献することも目指します。

院内における、新生児、周産期、救急、医学教育のそれぞれの領域でシミュレーション教育を牽引してきた、加藤稲子先生(新生児医学)、片野衣江先生(周産期医学)、増田和彦先生(救急医学)、飯塚成志先生(医学教育学)の4名の副センター長と各分野の多くの方々のご協力を頂き、研修プログラムを順次開催してまいります。将来的には県内の他大学病院・地域中核病院とも連携し研修プログラムを策定する予定ですが、開設当初は、院内で研修を充実させ、院内スタッフの中でプロバイダーおよびインストラクターを育成することが大切だと考えます。これまで個別にシミュレーション教育を行ってきた院内・院外の方々の更なるご協力をお願い致します。

シミュレーション教育に興味のある方々からの多数の御意見をお待ちしております。

(E-mail simncu@med.nagoya-cu.ac.jp URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/>)

臨床シミュレーションセンター長 笹野 寛



臨床シミュレーションセンターホームページをご覧ください。

救命救急センターを開設しました!

2011年4月1日から名古屋市立大学病院は救命救急センター(救命センター)の指定を受けました。これまで、旧救急部と総合内科を中心に各科の協力を得ながら、救急医療の提供と教育を行ってまいりました。今回、念願の救命センターの開設となり、医療と教育の質の向上をさらに求められると思っております。

さて、救命センターの体制ですが、全診療科協力体制の下、旧救急部と総合内科がより密に連携し中核となって支えていく形となります。また、より重症な患者に対応すべく、救急病床を20床整備いたしました。さらには、近隣の病院からのご要望もあり、小児・周産期救急医療に一層力を入れてまいります。

名古屋市立大学病院に救命センターと臨床シミュレーションセンター(上記)とが同時に開設されたことは、急性期医療教育を行う最良の環境の提供につながると思っております。医学部学生は臨床シミュレーションセンターの模擬的な臨床現場でトレーニングを積んだ後、救命センターにおいて実際の現場に出て実臨床を学び、再びシミュレーションセンターで確認を行うことができるようになります。この循環は教育の質を高めるためには、非常に有効な方法であると考えます。

名古屋市立大学病院救命救急センターは、これからも質の高い救急医療救急医療の提供と教育を提供してまいります。今後ともご指導とご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

救命救急センター長 祖父江 和哉



新たに診療を開始した救命救急センター内の様子。

